

堅信準備のプログラム作りには悩む。まず、時間帯。塾や部活に時間を取られている子どもたちが集まれる時間帯はいつなのか。親や塾の先生に相談してみた。その結果、日曜日の夜七時半からに決まった。司祭にとつては一番疲れが出る時でもある。この時間帯がいいとは想像もしていなかった。毎週というわけにはいかない。堅信直前の黙想会も入れて、十八回することにした▼準備の内容。第一回目は保護者同伴で参加してもらった。

地の塩

22. 8

堅信の秘跡がこの時期の子どもたち（小学高学年から中学二年生まで）にとつて、最も必要な恵みであることの理解を求め

た。できれば、子どもたちと一緒に参加することを勧めた。全プログラムの日程と内容をあらかじめ決めて発表しておく、

万難を排して参加するよう、協力を求めた。内容は、キリストが特別に定めてくださった恵み、秘跡について、が主なもの。しかし、単なる知識を持つためではなく、彼らの生活との結びつきが明らかになるように、その意味を伝えなければならぬ。そのためにテーマを決める。たとえば、「好きになったら結婚する？」「婚姻の秘跡」というふうに。ビデオ鑑賞や、他の信徒の話を聞く機会もつくる。教会や修道院、施設を訪問したり、ボラ

ンティア活動を計画する▼子どもたちを取り囲む環境は年々厳しくなっている。神不在の社会。大人になっていく大切なこの時期に、信者であることの喜び、共同体の支えを感じ取ってほしい。直接の関係者だけでなく、教会共同体として、一緒に信仰の見直しをするところができれば…。このクラスは他の信者にも開かれていて。教会が心のオアシスとなることを願う。子どもたちにとって、もいやしの場、安らぎの場になれば…。